

御議論いただきたい論点(案)

「第6期科学技術基本計画策定に向けたナノテクノロジー・材料科学技術の推進方策について(第一次案)(令和元年 6 月)」においては、主に「システム改革」に関する事項についての提言を行った。10 月の最終報告に向けて、特に以下の論点について、更なる検討が必要ではないか。

(1) 国際情勢を踏まえた我が国の立ち位置

米中覇権争いをはじめとする国際情勢が、我が国のナノテク・材料科学技術の振興に与える影響とは。我が国の今後の立ち位置をどう考えるか。

(2) 我が国の強み

我が国のナノテク・材料科学技術について、現時点での「強み」とは具体的に何か。その「強み」は今後も維持・強化できるのか。また、維持・強化のための取組とは。一方で、急速に弱くなってきている点は何か。それは今後克服・挽回できるのか。そのための取組とは。

(3) 異分野融合に向けて

「第一次案」では、異分野融合によるイノベーションの創出、特に、量子、AI、バイオのような新たな技術の進展に必須のキーテクノロジーとしてのナノテク・材料科学技術の振興の重要性が指摘された。異分野融合を進展させていく上で、必要となる具体的な取組や仕掛けとは。(短期的(2025 年頃まで)、長期的)

(4) 重要技術領域

「ナノテクノロジー・材料科学技術 研究開発戦略(平成 30 年 8 月)」を踏まえた上で、第 6 期科学技術基本計画、すなわち Society5.0 や SDGs の実現に向けて、特に今後重要となる技術領域とは。そうした重要技術領域を、政府として、どのような形(政策、施策)で振興していくことが適切か。(短期的(2025 年頃まで)、長期的)

(5) 各セクターの役割と政府の取組

物質・材料研究機構や大学・民間企業等が担っていくべき役割とは。また、各セクターの役割を踏まえた上で、政府が実施・強化すべき取組とは。(短期的(2025 年頃まで)、長期的)

(6) 国内外への発信

我が国のナノテク・材料科学技術の強みや、当該技術の振興の重要性を、国内外に適切に発信していくための手法や具体的取組とは。社会や国民に、ナノテク・材料科学技術を身近に感じてもらうために、今まさに発信すべきキーワードは何か。